



G N S S 使用の河川改修工事

工期短縮や質の向上に期待

延岡

日新興業 関係者を招き現場見学会

延岡市の大瀬橋上流約300mの右岸で、最新の全地球測位システム（GNSS・グローバルナビゲーションサテライトシステム）を使った河川改修工事が進んでいる。人工衛星との連携で、

現場の情報が手に取るように分かり、工期の短縮や工事の質の向上に役立つと期待が寄せられている。工事を手掛けている同市本小路の日新興業（河野孝夫社長）は21日、国土交通省や工事関係者を招いて現場見学会を行った。

国土交通省の事業で、大瀬川右岸側に、増水時に水を流す水路の造成工事。GNSSは現場近くにGPS（固定局）を設置して工事現場の位置情報をリアルタイムで受信。工事用のバックホウでもGPS（移動局）で位置情報を受信、双方がリアルタイムで情報をやりとりし、最新の位置情報をモニター上に表示する。

バックホウには四つのセンサーが取り付けられており、工事用データと位置情報を連動させることで、掘削箇所などを1センチ単位で調整できる。このため、測量と「丁張り」と呼ばれる掘削の目印設置が不要で人員が削減できる上、その間の工期が短縮できる。

従来工法に比べ、GNSSを使った工法は工事の進展速度も速く、のり面の仕上がりもかなりよい。同社現場代理人の吉本幸夫さん（52）は「作業員も最小限で済む上に仕上がりも素晴らしい」と

と改めて最新工法に感心。見学した人たちも興味深そうに見入っていた。